

新しい時代のまちづくり・都市計画の仕事

—御堂筋の場合—

大阪を代表するビジネスゾーンであり、エリアマネジメントや公共空間の新たな活用を目指した社会実験などの活動も活発に行われている「御堂筋」を対象に、そこで活躍している各種分野の方々から話題提供をいただき、ディスカッションをおこないました。また、オプション企画として、セミナーに先立ち、イルミネーションでにぎわう「御堂筋まち歩きツアー」を、セミナー後は「学生と社会人との交流会」をおこないました。



■開催要領

＜セミナー＞

◇日時：2019年12月17日（火）18:00～20:00

◇会場：ガスビル1階 『フラムテラス』

◇参加者：42人

◇内容：

- (1) 御堂筋に関わるの方々からの話題提供
- (2) ディスカッション

＜オプション企画1＞御堂筋まち歩きツアー

◇時間：17:00～18:00

◇参加者：16人

◇内容：イルミネーションでにぎわう淀屋橋から本町のまち歩き

＜オプション企画2＞学生と社会人の交流会

◇時間：20:00～21:00

◇参加者：33人

■セミナー開催概要

(1) 御堂筋に関わるの方々からの話題提供

◇エリアマネジメント団体／御堂筋まちづくりネットワーク事務局 大西正英氏（竹中工務店勤務）

- ・竹中工務店に入社して26年になり、開発計画本部で都市開発、地域開発に携わっている。「御堂筋まちづくりネットワーク」に2005年から事務局として関わっている。
- ・「御堂筋まちづくりネットワーク」は、既成市街地におけるエリアマネジメント団体として、企業が中心となり活動している団体である。御堂筋4.4kmの中でも特にオフィスが多く立地する淀屋橋から南に下り南御堂、難

波神社あたりまでの約1.2kmを活動エリアとしている。

- ・設立は2001年12月に有志25社で、沿道街区の建物所有者の会としてスタートした。設立当初より、ビジネスエリアとして発展させていくということと、地元の企業の集まりなので協力して地元の視点で課題解決をしていくこと、行政と連携をはかりながらすすめていくことをかかげて活動してきている。現在、正会員43社、特別会員1社、テナント会員8社の計54で構成されており、2017年に一般社団法人となった。理事会は大阪ガスさんを代表とする7社で構成されており、「都市環境部会」「にぎわい創出部会」「ガイドライン推進部会」の3つの部会で活動している。事務局としては、理事会や各部会等の運営、調整をおこなっている。
- ・設立して1年間、御堂筋の将来像を検討しまとめたものを「御堂筋STYLE 創生—新しい御堂筋の規制のあり方—」として発表した。こういう機能があればいいね、ということで、出会い・ビジネスチャンスにあふれるまち、さまざまな知的刺激があふれるまちといった7つのキーワードを掲げ、まちのイメージを示したものである。これが現在の活動のベースとなっている。
- ・2002年に提言をしていた高さ規制の緩和については、2014年に地区計画で具体化した。当時、エリアの課題として、土日に来ないということが挙げられていたため、地区計画の中には、にぎわい創出のための施設を1,2階部分に入れるという内容が盛り込まれた。このにぎわい施設については、デザインガイドラインが定められており、ガイドラインづくりに参加して意見を出させて頂いた。
- ・景観という面では、広告・サインなどもマネジメントしていくことを目的に、現在地権者間で協定を作成中である。
- ・2004年に側道を歩行者空間に変える提言をおこなっていたが、それを再度見直し、御堂筋を広場にしておくことを一つのコンセプトにして、改めて提言している。80周年事業で「御堂筋パークレット」として社会実験をおこない可視化し検証している。
- ・御堂筋の仕事においての役割としては、ビジネスエリア御堂筋の歴史をつないでいくということであり、これは単につなぐということではなく、時代にあわせて先導的に変化させながら、次の世代につなぐということだと考



えている。

- 変化の方向性としては、今後、インバウンドに留まらず海外からのビジネスパーソンもますます増加する中で、御堂筋を世界から選ばれる地域にしていくことが求められており、御堂筋にはそのポテンシャルがあり、魅力を磨いていくことだと思っている。

◇都市計画コンサルタントとして(株)地域計画建築研究所 チーム長 絹原一寛さん)

- 「ミナミ御堂筋の会」が2015年に立ち上がり、その事務局として活動に関わっている。御堂筋のミナミアリアではビルの建て替え更新が進展しており地価も上昇している。そのような状況で、どういったまちづくりをしないといけないかを考える必要があり、そのためには組織をつくらないと沿道の企業に届かないとの考えから設立に至った。不動産オーナー20社の会であり、3つのE（環境、経済、エンパワーメント）の実現を目的に活動している。海外のメインストリートの調査など、世界水準の情報を収集し、勉強会をおこなったり、建築家の隈研吾さんを招いての講演会などをおこなってきた。また清掃・自転車啓発などの地道な活動や、御堂筋イルミネーションの協賛も実施。
- 特に力を入れているのが側道（緩速車線）の歩行者空間化。側道からの車のシャットアウトは、沿道地権者だけで決めるべきではないため、協議会を立ち上げ官民連携で意見交換をおこなってきた。モデル区間である難波・千日前通の間が自転車と歩行者の空間として供用され、どのように使うかのソフト面の実験を地元のみなさんと一緒に「御堂筋チャレンジ」としておこなった。通行だけでなく、インバウンドなどの観光客にも付んでもらえるようにもしていきたい。さらに放置自転車どうするかも大きな課題であり、ベンチを置いたり、カフェを出店したり、レンタサイクルの実施などの目に見える実験をおこなっている。現在、モデル区間の北側で検討を進めており、昨年、市で社会実験をおこなった。ミナミは放置自転車問題が大きく、その財源確保のために、御堂筋にバナー広告を出している。またNPOでホームレス支援をおこなうHomedor との連携も検討中。新たに生み出された歩行者空間をどうやって使うか、持続的な活動にしていきたい。



- 私の仕事は、地域のステークホルダーと行政をつなぐコーディネーター役。また会の活動をけん引するエリアマネージャーの役割も担っている。これからは「マネタイザー」という役割も担わなければならない。活動資金を稼ぐ必要があり、ビルオーナーの会費、行政からの助成金だけでなく、バナー広告のような自らの事業で稼ぐことが求められている。

◇行政機関／大阪市建設局企画部企画課課長代理 石井友博氏

- 御堂筋の完成は昭和12年であり、平成29年に80周年を迎えた。当初は双方向の道路であり、側道は馬車などが走っていた。現在の南行き的一方通行となったのは昭和45年の大阪万博の時である。自動車の交通量は、昭和45年のピーク時と比べると4~5割削減している。一方で、自転車の交通量は6~7倍と増加傾向にある。歩行者は、特に南側のエリアで増加傾向にある。歩道上では、自転車と歩行者が錯綜するなどの状況がおこっている。
- このような現状を踏まえ、側道を活用し、喫緊の課題となっている歩行者と自転車が歩道内で混在している状況の解消を行うとともに、道路空間再編の将来イメージを現地で可視化するため、比較的自動車交通量が少なく、側道閉鎖による渋滞の影響が少ない千日前通から南の区間で、道路空間再編に向けたモデル整備を実施した。側道を閉鎖し、歩行者通行部の拡幅と、歩行者と自転車の分離をおこなっている。平成28年に供用開始している。
- 平成29年の80周年記念事業では、官民の団体が連携し御堂筋完成80周年記念事業推進委員会を設立し、シンポジウムやワークショップを実施し、御堂筋での取り組みを踏まえ、将来ビジョンを策定した。
- 大阪市の御堂筋の取り組みとして、海外大都市のメインストリートと姉妹ストリート協定を締結している。魅力的なまちづくりを展開するための多様な技術交流、情報交換、情報発信を行い、両市の連携を深めるとともに、友好的に都市の協力を推進している。メルボルン市やシカゴ市と協定を締結している。また、ニューヨークのタイムズスクエアが歩行者空間化されているが、当時ニューヨークの交通局長としてその取り組みを進めたジャンネット・サディク・カーン氏が来日し東京でトークセッションなどをおこなわれた折に、御堂筋にも視察に来られた。このように、御堂筋の取組みは国内のみならず国外からも注目されている。
- 御堂筋の将来ビジョンでは、「フルモール化」を目指し、車は一切通らない人中心の道に変えていくことを20年後の100周年に向けて取り組んでいこうとしている。ただ、現状からいきなりフルモール化することはできないので、ファーストステップとして側道の歩行者空間化をおこない、段階的にフルモール化を進めていく。
- この将来ビジョンは、公民連携で推進していく。そのプラットフォームとして、「御堂筋協議会」を設立する準備を現在進めている。今後、ハード整備、ソフト施策を一体的に展開していくことを目指している。ハード整備



として側道を歩行者空間化するだけでなく、そこをいかに活用していくか、活用することによりいかにまちのにぎわいにつなげていくかといったことを考えながら進めている。

- 大阪の未来ということでは、2025年の大阪・関西万博に向け、大阪左岸線をはじめ、様々な取り組みを進めている。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、こうした流れの中で、御堂筋が果たしていく役割は大きいと考えている。

(2) ディスカッション

◇都市計画の仕事は時代とともに変化している

(岡先生) 本日、ゼネコン、都市計画コンサルタント、行政といった異なる立場でありながら「御堂筋」でつながって仕事をされているということで、それぞれの立場からの話題提供をいただきました。本日は、学生対象のセミナーということで学生に向けて、ぜひ、登壇者のみなさんに、ご自身が就職されたときに、現在御堂筋でされているようなお仕事をしようと思っていたかどうかお聞きしたいと思います。いかがですか。

(大西氏) もともとまちづくりがしくて、開発計画本部を希望しました。御堂筋での活動では、当時考えていた以上にまちづくりの仕事ができています。特に御堂筋という公共空間の「道路」を中心としたまちづくりに携われるとは思っていませんでした。もともと、建物の形態よりも、建築を通じて、ふさわしい用途などを考えて人の生活の場をつくることに関心がありました。今、ゼネコンにしながら、エリアマネジメントに関わっているのは有り難く、やりがいを感じています。

(岡先生) 竹中工務店に入ればエリアマネジメントできるとは限らないですね。

(大西氏) そうですね。御堂筋は、本社を置くエリアの活性化という特別な動機があります。エリアマネジメントを通じてまちを良くしていくことが、ビジネスにつながっていくということも考えていければと思います。

(岡先生) そもそも当時は世の中に「エリアマネジメント」という言葉すらなかったです。ですので、学生のみなさんが「エリアマネジメント」の仕事をしたいと思っても、就職して何十年後にどうなっているかわからないですね。仕事とはそういうものだと思っています。

(絹原氏) 今のような仕事をするとはまったく思っていませんでした。学生のころは、町家の保存や景観を研究していて、その延長上で仕事をするようになりました。入社したときに、「同じ仕事で3年は食べません」と言われたこともあるのですが、3年サイクルで仕事が変わっていったら、気が付いたらエリアマネジメントをしていました。今は、何が専門なのかわからなくなっている。それだけまわりをとりまくまちの状況がかわっているということだと思います。仕事で、例えば建物を建てるというわりとわかりやすいですが、エリアマネジメントの仕事はまったくちがっていて、時代にあわせて手をかえ、品をかえやっていると感ずいています。つかみどころがないとも言えます。ですが、その中でも楽しみながらやっています。

(岡先生) 話題提供の中でも「お金」の話がありました。建物を建てる「お金」が生まれます。ですが、例えば、コンサルタントという仕事では建物は建てないんですね。例えば、国の交付金をとってくるなど、お金の算段をすることも多いですね。

(絹原氏) そうですね。自分で工面しなければ仕事にならないですね。お金の算段はリアルな仕事です。

(岡先生) 次に石井さん、いかがですか。

(石井氏) 半分はイエスで半分はノーですね。就職したときは、インフラの仕事をすると思っていました。そこはイメージどおりですが、新たに道路をつくることや改良するということを考えていましたので、側道を閉鎖して広場をつくる、といったことは考えていなかったですね。

(岡先生) 御堂筋を広場にするとという発想は、当初はできるかどうか懐疑的なところがありましたが、イタリアやオランダなどヨーロッパをみると、メインストリートモールにして、まちなかに車がないという事例はたくさんありますね。

◇御堂筋の歩行者空間化には車の問題、事業資金の獲得など、課題は多い

(岡先生) それでは、会場から質問を受けたいと思います。

(学生) 御堂筋を人が行き交う空間にすると、現在御堂筋を利用している車はどこに行くのでしょうか。今当たり前につかっただけの方はどうなるのでしょうか。

(石井氏) するどい質問ですね。車の交通量は減ってきており、これからも減っていくのですが、といっても、これだけの交通量がまったくなくなるわけではない。一つは、ここを通過するだけの車が相当数あるので、そういう車を都心に入らないようにしようとする考え方があります。その目的で都市再生環状道路があります。これで都心に用事のない車は入らないようにすることで総量を大幅に減らすというものです。ただ、そうはいっても、御堂筋に用事がある車もあるので、これをどのように処理するのが難しい課題となっています。側道を閉鎖するにあたって、荷捌きの車をどうするか苦慮していて、千日前通から道頓堀川間の荷捌き用の駐車スペースを5台分確保する予定ですが、それだけではなかなか対応が難しいことが想定されています。

(学生) 事業を続けるためには補助金が難しいので稼ぐことを考えないといけなと思います。話題提供のなかで



も、ホームレス支援のNPO 団体と連携してという事例が紹介されていましたが、やはり補助金なしでやっていけないのでしょうか。

(絹原氏) ミナミ御堂筋の会は補助金はもらっておらず、会費で活動をおこなっています。やはり活動をおこなうためには、原資が必要なので、お金が入ってくる仕組みはつくっておかなければならないです。会員はみなさん経営者ですので、お金を稼ぐ方法を真剣に考えています。例えば広告収入ですが、やはり御堂筋は注目度が高いので、広告を出したい企業はたくさんあります。ですが、広告は景気によって左右されるので、それだけでは続かないと思っており、今必死に考えています。

◇学生時代に得た知識やネットワークは社会でも有益

(学生) 「入社したときに今のような仕事をするか想像できなかった」とお聞きしましたが、今、就職か進路で迷っています。学生の経験・研究内容が今の仕事に活かしているのかどうか教えてください。

(大西氏) 大学ではアメリカのゾーニング制度を研究テーマにしていたので、今の仕事に結びつく知識はある程度ありました。時代も変化し、その知識がそのまま活かすことはできませんが、背景や考え方などは理解しやすいので、無駄ではないですね。

(絹原氏) 私は山口県出身なのですが、山口県は人口減少でまちなかがさびれていて、学生のころ、さびれたまちなかをなんとかしたいと研究していました。今も同じ思いで仕事をしています。今の職場は、興味、楽しいこと、関心を追求できる会社で、学生のときに抱いていた思いがそのまま続いているといってもいいかもしれません。

(石井氏) 大学の研究室の専門は砂防でした。そういう意味では、大学での専門とは異なる仕事をしているかもしれません。ただ、もともと興味があったのはまちづくりや道路でした。役所の仕事が扱う範囲は広いので、就職してから改めて勉強しているという感じもあります。学生時代のネットワークは活かしています。

(岡先生) 大学時代に関わっていると、仕事に関わったときに入りやすい、ということかもしれないですね。それでは、他に質問ありますか。

◇地道な活動で目に見える成果を積み重ねることが会の発展につながる

(学生) 御堂筋まちづくりネットワークは会員企業が約50社ということでしたが、それらの会社は必ずしも不動産やインフラ、まちづくりに関わりのない企業もあると思います。そういった企業の方に会の趣旨や目的の理解、合意形成などはどうしてきたのかを教えてください。

(大西氏) 御堂筋まちづくりネットワークの会員企業の関わり方はさまざまです。不動産とかゼネコンとか開発などに関連する積極的な企業もあれば、まちをよくしようとする企業、CSR など地域貢献で積極的にとりくまれている企業など、いろいろな立場があります。それぞれのかかわり度合いでゆるやかにネットワークしています。

(岡先生) 当初は一社ずつまわられたりしたとお聞きしたことがあります。

(篠原氏) そうですね。スタートは30社くらいだったと思いますが、一社一社声をかけましたし、その後も、粘り強く声をかけていった経緯があります。ただ、最近では、活動の実績ができて、目に見えるようになると興味を引くようになり、現在の約50社となりました。少しずつやっていくことでしか増やす方法はないですが、ただ、やはり目に見えるようになることが重要なと思います。

(絹原氏) ミナミ御堂筋の会はミナミの商売人、古くから不動産を持っておられる老舗の方がなんとかしなくては、と立ち上がって始まった会です。最初は仲間内の会のようなものだったのですが、大阪市の事業が急に動き出していったときに、「情報を持っていないと損」ということでミナミからじわじわと広がってきました。社会実験などもあり、新しく不動産を手に入れた人に対しても目に見えるメリットが増えてきているので、会が広がってきています。ミナミ御堂筋の会は、まだ新しい会なので、地道にやっていくことが大切かと思っています。ただ、少し悩ましいのは、特に心齋橋から長堀通の不動産価値が上がりすぎていて、ファンド系の所有者が増えてきていることです。ファンド系の所有者は実態がなかなか見えづらいですね。

◇歩行者空間化された御堂筋の将来像は？

(学生) 御堂筋の全面歩道化することにより、放置自転車対策をはじめ維持管理がたいへんになることが予想されますが、その空間をどのように扱っていくと考えておられますか。歩道の延長上で考えるのか、あるいはてんしばのような運営方法などを取り入れるなど、何か方針はあるのでしょうか。

(石井氏) 大阪市の見解としてはまだ白紙です。ただ、うまく活用してにぎわいをつくるのが重要だと思っているので、関係するみなさんと協議しながら考えていきたいと思っています。個人的には、てんしばのような、利用する人が楽しいと感じられるような空間になればと思います。空間

(岡先生) 大阪市としては、まちづくり協議会を支援し、地元でまちづくりを考えてもらうという方針をとって

いきたいとお考えですね。御堂筋が第一号の事例です。(絹原氏) ミナミの御堂筋は、沿道が商業施設なのでにぎわいがキーワードだと考えています。にぎわいといっても、買い物だけではなく観光や文化などいろいろなにぎわいをつくっていかなくてはならないと思っています。そのためには、道路空間だけでなく、沿道の建物とセットで考える必要があります。今のところ、将来像はまとまっていなくて、ミナミ御堂筋の会でも意思統一はまだしていません。ただ、やはりにぎわいを作っているのは、民間なので、民間が楽しくできる仕掛けを考える必要があります。てんしばのもっともっと発展形みたいなことができるのではないかと考えています。

(大西氏) 御堂筋ネットワークのエリアである淀屋橋一本町間では、側道が歩行者空間に変わると、歩道と側道で幅約 11m あり、それに加えて民間の敷地側に 4m セットバックの空間があるので、15mの歩行者の空間となります。そこをどう使うかは決まっていますが、ビジネスエリアとして価値を高める使い方をしていきたいと考えています。働き方改革と言われているが、さまざまなワークスタイルが実現でき、いききと働けるエリアに向けてどうすればよいのかを考えています。

(岡先生) もともとこのあたりはメインストリートから一本はいると繊維業のまちだったんですね。働き方も業種・業態もかわってきているわけですが、そういったことでいうと先がどうなるかは見通せないですが、楽しいですね。最後の質問になりますが、いかがですか。

(学生) 近年、海外では、MaaS といった取り組みが始まっています。AI にまかせて、経路を選択させて、交通量を減らすといったような取り組みが大阪でおこなわれることもありますか。

(石井氏) 大阪市でもスマートシティに向けた検討はうめきた二期や万博・IR の関連で夢洲などで進めています。正確な展望はあるわけではないですが、技術がかわってくるとまちのあり方もかわってくると思います。

(絹原氏) ミナミの御堂筋でも社会実験をおこなっていますが、Wi-Fi のデータで、どこからきてどこで滞在しているかといった分析をしています。それをもとに、エリアをどのように回遊させてにぎわいをつくるのか、そこにどういった技術を使うのか、メインストリートとして考えなくてはならないと思います。

(大西氏) 新しい技術、動きが出てきて、世の中が大きく変わってきている中で、こういう分野では、これまでの経験もあまり活かさないですね。ですので、みなさんと一緒に目指す将来像を議論して考えていきたいと感じています。

◇御堂筋・大阪のまちづくりをぜひ一緒に！

(岡先生) 本日こられた学生さんのなかでは、就職などで大阪を離れる方もおられるのではないかと思います。大阪で是非働いてほしいと思っていますが、今回の登壇者の 3 名から、学生さん方が大阪で働きたくなるような、大阪の魅力といったことについて、メッセージをお願いします。

(石井氏) 大阪は 2025 年の万博を契機に新たな取組

みにチャレンジしていきます。これからの 20 年、30 年でまちの構造がダイナミックに変わっていく時代だと思っています。うめきた二期や淀川左岸線、また鉄道でいえば北梅田に新駅ができます。鉄道を延伸しなわ筋線で関空までつながります。新大阪に目を向けると北陸新幹線やリニア中央新幹線の乗り入れもあります。御堂筋も側道を閉鎖して変わっていくなど、すごくおもしろいと思います。

(絹原氏) ずっと仕事をしてくることは、東京はもっと巨大で、仕事をやっても、自分が何をしていてまちがどう変わっているのかがなかなか見えにくいと思います。ですが、大阪はほどよい規模感で、顔が見えるんですね。関西は歴史もあって、豊かなので、そこをフィールドとして仕事ができるのはおもしろいと思います。ただ、関西だけにこだわるのではなく、ここを基点にグローバルに活躍できる人材になってほしいと思います。

(大西氏) これからは、どこでも仕事ができるような時代ではありますが、おもしろい人が集まっておもしろいことが起こるエリアというのは世界でもピンポイントで選ばれていくつかの都市に限られるそうです。御堂筋もそうした都市のひとつになり、皆さんに御堂筋で働きたい、くらしたいと選んでもらえるエリアにしていきたいと思っています。御堂筋、大阪はまちの魅力はともあります。海外にひけをとらない、安全できれいです。ただ、わくわく感や高揚感、彩がやや足りないと思います。ぜひそういった魅力づくりを、みなさんと取り組みたいと思います。

(岡先生) ありがとうございました。

■オプション企画の様子



御堂筋まち歩きツアー



学生と社会人の交流会